



ドクターヘリについて

姫路救命救急センター 谷口 智哉

ドクターヘリというと、山下智久さん主演のTVドラマ「コードブルー」を連想される方が少なくないかもしれません。いわゆる「救急医療用ヘリコプター」であり、医療機器や医薬品を搭載した専用の機体に当院の救急科医師及び看護師が搭乗して救急現場等に出動し、傷病者の治療を行いながら医療機関に速やかに搬送することにより、救命率の向上及び後遺症の軽減を図ることを目的として運用されるヘリコプターのことです。

当院から飛び立つドクターヘリは正式名称を兵庫県ドクターヘリと言い、兵庫県立加古川医療センターを基地病院、当院を準基地病院として2015年1月より共同運用が開始されました。2016年4月現在、兵庫県ドクターヘリは週2回(毎週火曜日、水曜日)当院ヘリポートに駐機しており(図1)、要請があれば救急現場や病院間搬送に飛び立ちます。それ以外の曜日は兵庫県立加古川医療センターから出動しています。ヘリコプターは有視界飛行方式のため、兵庫県ドクターヘリのフライトタイムは原則として午前8:30から日没までとなっています。運航範囲は図2のように播磨地域全域及び篠山市をカバーしており、大規模災害時などにはこのエリアを越えて出動することもあります。2015年の1年間における当院からの出動件数は計106件で、内訳は救急現場92件、病院間搬送14件でした。残念ながら一般の方からの直接の出動要請はできず、病院間搬送を希望される医療機関または消防本部や救急隊の判断で要請となります。



図1

また、ドクターヘリは空を飛ぶという非日常性を孕んでいるため、安全には細心の注意を払って運用されています。

日本では2001年4月1日よりドクターヘリ事業が正式に開始され、累計出動件数は2016年4月現在14万件以上になりますが、これまで人身事故発生件数(死亡事故ではない)はゼロと高い安全性を保っています。

出動時には、お馴染みの「コードブルー!コードブルー!」のアナウンスが院内放送で流れます。行き先はというと、いかにもといった典型的な重症症例を想像されるかもしれませんが、実はドクターヘリは重症の救急現場のみならず、地域医療支援という点でも大きな役割を果たしています。その1つが、病院間搬送(高次医療機関への搬送に限る)を目的としたドクターヘリの使い方です。兵庫県には山間部が多く、そういった地域では限られた医療資源しかありません。そのような状況の中で高次医療機関への搬送手段として救急車を用いてしまうと、当該地域の救急隊が1隊不在となります。また高次医療機関への病院間搬送の



図2

場合、多くが医師や看護師の同乗を余儀無くされ、搬送中は当該地域が無医療状態になってしまう可能性もあります。搬送にドクターヘリを利用して頂く事で、こういった問題を解消することができます。特に、SAHやStanford A型急性大動脈解離など緊急性の高い内因性疾患の患者さんを病院間搬送するケースでは、根本治療開始までの時間の短縮という点からもドクターヘリが非常に有用であると考えています。これからも、搬送手段の1つとして兵庫県ドクターヘリを積極的にご活用頂ければ幸いです。

